

富中だより



令和3年度合い言葉
元氣なあいさつ笑顔が一番

元気なあいさつ笑顔が一番、仲間を認め合い、地域と共に創る魅力のある学校



(学校便りのこの欄は、生徒の皆さんに読んで欲しい内容が中心です)

いじめ調査～いじめはなぜいけないのか？

校長 水野 秀哲

先だって今年2回目のいじめ調査がありました。気になることがありますので、皆さんにも考えてほしいと思います。

調査には【あなたは、…「いじめ」はどんな理由があっても許されないことだと思いますか】という設問があります。【そう思う】と答える生徒が大半を占めます。気になるのは【そう思わない】・【わからない】を選ぶ生徒が、両方とも前回よりも増えていることです。

人間社会には、法律や規則、制度などによってきっちりと決まっていることもあれば、人の感覚に委ねられていることもあります。朝会でもお話ししましたが、一般的にはルールとマナーで区別されます。実はもうひとつモラルというのがあります。モラルは日本語で「道徳」と訳されます。

また、以前、「卑怯な人間にはなって欲しくない」ことを書きましたが、「卑怯」と「いじめ」には密接な関係があると思います。

人類の歴史は、「異質なものを排斥しようとする」ことの連続でした。話す言葉が違う、習慣や考え方が違う、肌の色が違う…自分たちと異なるものを否定したり、取り除こうとするものの連続だったのです。多くの人たちがそう思う＝大数派をマジョリティといいます。異なる意見をもつ一部の人は＝少数派をマイノリティといいます。マジョリティがマイノリティを排除してきたと言ってもいいかもしれません。「人間は平等である」とされながら、その「排除する」考え方そのものが誤っていると共通理解されてきたのは、人類の歴史からいえば、ごく最近のことです。マジョリティがいつも必ず正しいとは限りません。マイノリティが尊重されることは、パラリンピックを見ていると感ずるところだと思います。

人間が他の動物と大きく異なるのは、知性をもっていることです。知性で本能をコントロールできることです。動物社会では、生存競争が当たり前で弱者は見捨てられ、淘汰(とうた=辞書をひいてください)されています。人類は発達した知性で、捨てるのではなく、弱者を救うことの大切さを学んできたのだと思います。

「人の好き嫌い、考え方の好き嫌いをするな」ということを言っているわけではありません。自分とは異なる考え方や好みをもつ人がいたとします。自分はその考え方が好きではない。しかし、「嫌いだからなくなってしまう」＝存在を否定する理由にはならないのです。それが

人を蔑む(さげすむ=辞書をひいてください)理由にはならないのです。

自分と合わないというだけで、否定し、排除しようとするのは、ここまで書いてきたことを考えれば、いかに幼稚で愚かな事であるかが理解できると思います。小学生ではありませんので、理屈で理解できることが必要です。

排除する方法として、仲間はづれにする、無視する、小馬鹿にする、陰口・悪口をいう、暴言・暴力を振るう、威圧する…そうして自分達が優位であることを示したり、自分達のゆがんだ結束力を得たりする。ネット社会になって一層陰湿になっていると思います。「弱者いじめ」という言葉は昔からありますが、実に卑怯です。好きになったり嫌いになったりするの仕方ないことです。けれども嫌いだからと言って、いじめて良いという図式は単なるワガママ、自分勝手な振る舞いでしかありません。明らかに誤っています。

「嫌いだから、刺した」「イヤだから、殴った」。刺した・殴ったはいかなる理由があっても、許されませんよね。法律＝ルールに反しているからです。「気に入らないから、いじめた」も同じ理屈です。気に入らないという感情を責めているのではなく、いじめという行為がダメなのです。

今、いじめをすることは明かな「ルール違反」です。肌を切れば血が流れます。目に見えて痛いですがね。心が切られていても、傷が見えません。しかし、血は出なくとも、切り傷よりはるかに深かったりします。

心の優しい生徒は、マナーを大切に、人としてどうあるべきかを考え、そして人を助けようとします。困っている人に寄り添い、力になろうとします。それはルールではなくマナーやモラルとして大切なことです。本来的にはそうあるべきだと思うし、そういう生徒が増えることは嬉しいことです。しかし、いじめは「マナー違反」で済む話ではありません。

【いじめの把握のためのアンケート結果の概要】

R3・2回目11月実施 ()はR3.6月

質問項目	結果
1 嫌な思いをしたことがある	・ある 4.3% (6.5%) ; 10件 【1年：7件、2年：2件、3年：1件】
2 1の内容	※最多の回答：冷やかしかやからかい、悪口
3 1のとき相談する人は？	※多い回答上位3つ ・友人66% (64%) ・保護者56% (55%) ・先生37% (40%) ※誰にも相談しないは18% (16%)
7いじめ許されない	・そう思う：84.8% (90.3%) ・思わない・わからない：15.2% (9.7%)

毎回、1の「嫌な思いをしたことがある」と回答した生徒には、教員が個別に面談を行ったり、全体への指導を行ったりしています。

(前回、実施したいじめアンケートで「嫌な思いをしたことがある」と回答し、いじめと認知した生徒は、解消されています。)

